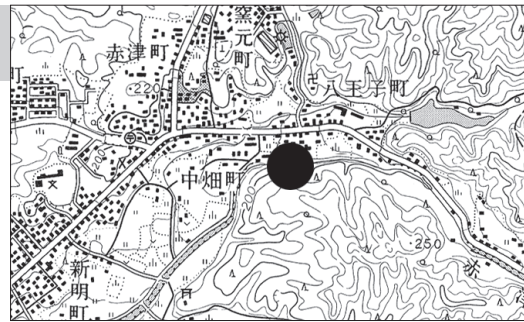


たこやま やしき

## **嵐山屋敷範囲確認調査**

所在地 瀬戸市嵐山町地内  
 調査理由 県道瀬戸設楽線建設  
 調査期間 平成12年4月～5月  
 調査積 100 m<sup>2</sup>  
 担当者 北村和宏・小澤一弘・魚住英史



調査地点 (1/2.5 万「猿投山」)

**調査の経過** 県道瀬戸設楽線建設に伴う事前調査として範囲確認調査を実施した。調査対象地地域内の地形・遺物の散布状況などを考慮しつつ、試掘坑（トレンチ、以下Tと省略する）を大きく西部と東部に分けて設定し、掘削した。試掘坑は総計22箇所（T 01～T 23、T 08は欠番）となった。T 01からT 07、T 16・T 17を西部、T 09からT 15、T 18からT 23を東部とした。

**立地と環境** 嵐山屋敷遺跡は矢田川の支流赤津川流域にあり、嵐山町北側の丘陵上で赤津川左岸に立地し現況は竹林である。遺跡の南東側斜面上には大窯期の嵐山A窯が、南西側の山を越えたところには江戸時代の瓶子窯が存在する。

対象地の西半部は平らな面（畑地）が広がり、山側（南）が一段高く、比高差は約150cmを測る。対象地の東半部分は川に面した一部と山側の一部に石垣や平らな部分が見られる。平らな面は山側（南）が広く、川側（北）は一段低く狭い。

**調査の概要** トレンチは西半部に9ヶ所、東半部に13ヶ所の総計22ヶ所を設定した。このうち、遺物が出土したトレンチは14ヶ所である。前述したように大窯期の嵐山A窯や江戸時代の瓶子窯があり、トレンチから該当する時期の出土遺物が目立つ。

**西部** 平坦面が上段と下段に分かれ、竹林となる前の畑の様子が窺われる。上段と下段の境の一部には石垣がのこっていた。T 01・T 03・T 17の暗褐色粘質土層より大窯期の天目茶碗や播鉢が出土したが、この暗褐色粘質土層はT 04・T 05より東にはない。T 01の溝は遺物が出土していないため時期は不明であるが、耕作に伴う溝と考えられる。このトレンチ以外遺構は確認できなかった。

**東部** 屋敷地と考えられた一画ではT 09とT 15の付近の表面に大窯期や江戸から明治期の陶磁器が散乱していた。また、ピット等を検出しているが、現況から耕作に伴ったものや木の根や筍の跡の可能性が大である。また下段のT 15よりO -10期の須恵器が出土したが同じ層位より山茶碗や大窯期の製品が出土していること、また人頭大から拳大の円礫が重なった状態で検出したことなどから、斜面より下の平坦部分については旧表土の堆積と考えられる。

（小澤一弘）